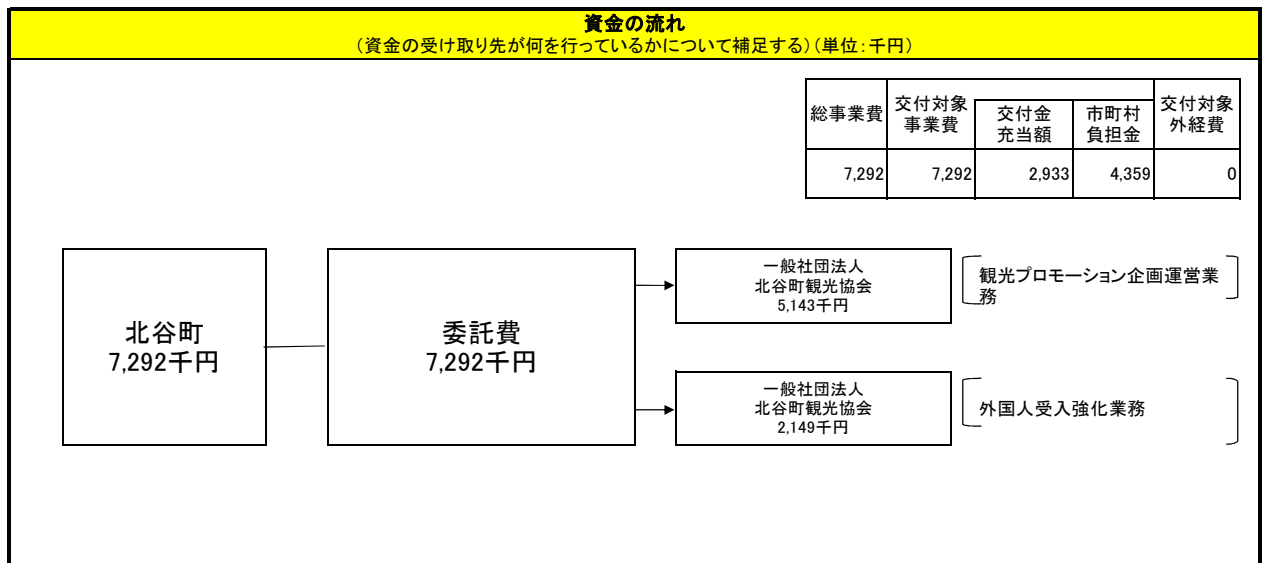


市町村名		北谷町											
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	1-① 北谷町観光物産プロモーション		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア								
	建設経済部 商工観光課		事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度		国際的な沖縄観光ブランドの確立								
担当部課名			沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)								
事業内容	北谷町の知名度を一層向上させ、本町への観光客誘客推進と観光資源である地域特産品の効果的なアピール及び販路拡大支援を図るため、県外、海外における、観光誘致対策事業、誘客プロモーション事業を展開する。また、北谷町観光情報センターにおいて多言語対応職員を配置し、外国人観光客へのアンケート調査による満足度調査及び多言語情報パンフレット製作を実施する。												
効果発現年度	■当年度 □後年度(令和 年度)												
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()												
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
		(a)当初予算額	14,790	8,600	10,000	12,121	9,714	(b)予算現額	14,790	8,600	10,000	12,121	7,959
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	▲1,755	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	14,790	8,600	10,000	12,121	7,959	B.執行済額		12,752	7,900	8,939	12,097	7,292
	うち交付金充当額		10,000	6,000	7,000	9,000	2,933	次年度繰越額		0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		86.2%	91.9%	89.4%	99.8%	91.6%	予算の状況の説明					
			当初より2つの契約を予定しており、1つの事業については計画通り事業を執行できた。もう一つの事業については、契約内容の調整に時間を要し契約がずれこんだため、当初予定していた契約期間よりも期間が短くなったため契約額が減となった。										
	活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
				H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
		国内プロモーション2ヶ所実施	目標	(2ヶ所 観光啓発物配布 2,000個)	(3ヶ所 観光啓発物配布 3,000個)	(2ヶ所)	(2ヶ所)						
実績			4ヶ所 観光啓発物配布 9,300個	3ヶ所 観光啓発物配布 5,300個	2ヶ所	2ヶ所							
海外プロモーション2ヶ所実施		目標	(2ヶ所 観光啓発物配布 2,000個)	(2ヶ所 観光啓発物配布 2,000個)	(3ヶ所)	(2ヶ所)							
		実績	2ヶ所 観光啓発物配布 9,600個	2ヶ所 観光啓発物配布 4,300個	3ヶ所	2ヶ所							
プロモーション動画制作		目標	()	()	()	(動画制作)							
		実績				動画制作完了							
多言語対応窓口の設置、多言語観光情報パンフレット等の制作等	目標	()	()	(多言語窓口設置 パンフレット制作)	(多言語窓口設置 パンフレット制作)								
	実績			多言語窓口設置 パンフレット制作 完了	多言語窓口設置 パンフレット制作 完了								
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 国内プロモーションについては、予定通り2拠点実施した。 海外プロモーションについては、予定通り2拠点実施した。 プロモーション動画を制作し、それらを活用した媒体露出を図った。 北谷町観光情報センターへ多言語対応職員を配置し、外国人観光客へアンケート調査を実施した。 多言語情報パンフレットを、3言語(英語・中国語・韓国語)製作し、利用者等への配布を実施した。 												
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)						
	・観光情報センター利用者数 76,760人以上 (うち外国人利用者数55,332人以上)	目標	()	41,000人 (26,000人)	(57,440人 (40,910人))	76,760人 (55,332人)	()						
		実績		63,737人 (44,947人)	74,514人 (49,532人)	63,665人 (37,508人)							
	外国人観光客の大多数が利便性が確保されたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	(ニーズ調査実施)	80%	()						
実績				ニーズ調査完了	82%								
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ○北谷町プロモーションとして、国内2拠点、海外2拠点へ観光プロモーションを実施したが、観光情報センターの利用者数は減少した。 ※減少の要因は、日韓政府間関係悪化に伴い、7月から韓国観光客が激減したこと。また令和2年に入り新型コロナウイルス感染症拡大の多大な影響を受けたことが考えられる。 ・全体の利用者人数が、H30年度74,514名からR01年度63,665名で10,849名の減少。 ・日本人利用者人数が、H30年度24,982名からR01年度26,157名で1,175名の増加。 ・外国人利用者人数が、H30年度49,532名からR01年度37,508名で12,024名の減少。 												

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(北谷町のプロモーションピーアール露出の増加) ・毎年継続してプロモーションを実施している台湾等の一部海外以外での本町知名度向上の取り組みが必要である。	(北谷町のプロモーションピーアール露出の増加) ・本町への来訪者が多い韓国・中国・台湾・香港等の地域だけでなく、沖縄からの直行便も就航し始めたタイへのプロモーション活動も継続して実施する必要がある。
	(観光情報センター年間利用者人数) ・西海岸に位置する美浜地区においては、今後さらに宿泊施設が増える見込みである。北谷町を訪れる観光客の満足度を向上させるためにも、継続的に外国人対応窓口を設置しおもてなしを強化する必要がある。 ・今後、新型コロナウイルス感染症拡大による影響の長期化も踏まえ、観光危機に対する受入体制強化と、インバウンドに頼りすぎない国内プロモーションの強化が必要。	(観光情報センター年間利用者人数) ・今後増え続けるであろう外国人観光客に適切に対応するため、継続的に外国人対応窓口を設置し、おもてなしの強化を図るとともに、満足度調査を実施し、次年度以降の業務改善を図る。
今後の取り組み方針		
(北谷町のプロモーションピーアール露出の増加) ・今後も本町の知名度の向上と観光客誘客推進を図るとともに、国内外における観光物産プロモーションを継続的に実施する。 ・「ちゃたんブランド」を活用し、本町が持つ様々な魅力を視覚的にPRしていく。 (観光情報センター年間利用者人数) ・増加する外国人観光客への対応として、多言語対応窓口の設置、多言語観光情報パンフレット等の製作を継続的に実施する。		



資金の流 れ、費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各契約については、地方自治法施行令第167条の2第1項第1号に基づく随意契約であり、妥当であったと考える。 ○事業執行において最小限必要不可欠な予算となっており、適正であったと判断した。 ○費目・使途については事業の目的を達成するためには最小限必要不可欠なものであったことから、適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北谷町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-②	コミュニティバス導入調査検討事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ	
担当部署名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人に優しい交通手段の確保	
事業内容	観光客や町内交通弱者の利便性・回遊性の向上を図るため、観光施設や商業施設等を周遊するコミュニティバスの実証運行を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	(a) 当初予算額	11,988	41,252	47,656	48,902	37,126
	(b) 予算現額	7,215	5,249	37,476	35,030	33,329
	(c) 増減額(b-a)	▲ 4,773	▲ 36,003	▲ 10,180	▲ 13,872	▲ 3,797
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	7,215	5,249	37,476	35,030	33,329
	B. 執行済額	5,968	3,599	33,088	33,749	30,871
	うち交付金充当額	4,700	2,800	26,300	26,500	24,696
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	82.7%	68.6%	88.3%	96.3%	92.6%
予算の状況の説明	予算減3,797千円については、入札残や、次年度のルート変更が無くなったことによる新たなパンフレットの作成が不用となったことによるもの。 不要額2,458千円は、運賃収入(対象外経費として運行委託経費から減額)や各契約の精算によるもの。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	コミュニティバスの実証運行を実施し、その効果検証を行う。	目標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
実績	実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの実証運行を実施した。 ・令和元年6月1日付ルートやダイヤを変更し、回数券や無料乗継券の導入を実施した。 ・リーフレットを増刷し、配布を行った。 ・実証運行の報告として検討調査業務における報告書を作成した。 ・実証運行の報告及び評価検証の場として北谷町地域公共交通会議を開催した。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	バス利用者に利便性・回遊性の向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標 ()	()	(80%)	80%	()
	実績			77.30%	59.20%	
	目標	()	()	()	10%	()
	実績				8%	
進捗状況説明	アンケートの満足度については、総合評価ではなく各項目の満足度の平均値により算出。運行本数や南北コース間の乗り継ぎの満足度が低く、未達成となった。 収支率については、延べ利用者数や回数券の売り上げが伸び、多少の改善が見られたものの、未達成となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・1周当たりの周遊時間が長いことにより、1日あたりの運航便数が少なくなり、満足度が低下している。 ・利用者数の少ないバス停が複数あり、周遊時間の増長に繋がっている。 ・無料乗継券、回数券の導入による運賃負担の減少により、「運賃」項目の満足度が増加している。 ・起終点の変更により、利便性の向上が図られ、「運行ルート」の満足度が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行ルートの見直し、バス停留所の見直しを行い、一周当たりの周遊時間の縮減及び運行便数の見直しを行い、満足度の向上につなげる。 ・時刻表・路線図等の満足度が7割に満たず、電話で受けての要望でも「路線図等がわかりやすく、バスを利用しにくい」という意見が多いため、わかりやすい時刻表・路線図を作成し、広報を行う。
今後の取り組み方針		
<p>・観光客や本町を訪れている方が利用しやすいように、利用促進に取り組む。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">33,062</td> <td style="text-align: center;">30,871</td> <td style="text-align: center;">24,696</td> <td style="text-align: center;">6,175</td> <td style="text-align: center;">2,191</td> </tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	33,062	30,871	24,696	6,175	2,191
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
33,062	30,871	24,696	6,175	2,191										
北谷町 30,871千円	報酬 59千円	報酬 59千円	北谷町地域公共交通会議委員報酬 (2回実施、14人)											
	需用費 81千円	株式会社尚生堂 81千円	コミュニティバスリーフレット印刷業務 (現行リーフレットの増刷)											
	委託料 30,731千円	株式会社琉球バス交通 24,775千円	コミュニティバス実証運行業務委託											
		ほか、利用料収入分 (交付対象外経費) 2,191千円												
		仲地鉄工所 87千円	コミュニティバス移動式バス停留所作成及び移動業務											
		ランドブレイン株式会社 5,830千円	コミュニティバス本格運行検討調査業務委託											
		有限会社サン印刷 39千円	コミュニティバス専用回数券等印刷業務											
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○運行委託事業者(株琉球バス交通)は、運行に必要な諸条件を満たしている唯一の事業者として、地方自治法第167条の2第1項第2号により随意契約を締結した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○運行委託以外の契約については、見積もり合わせや入札による事業者選定を行っており、妥当であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である利用者から運賃を徴収しており、事業内容から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	北谷町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	西海岸歩行者ネットワーク整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ			
担当部署名	建設経済部 土木課	事業実施 (予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光客や町民が、本町西海岸(安良波公園から砂辺馬場公園まで)の観光スポット等を、ウォーキングや散策をしながら歩ける遊歩道を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額					34,084
		(b)予算現額					34,084
		(c)増減額(b-a)					0
		(d)繰越額					-
	A. 計(b+d)						34,084
	B. 執行済額						33,494
	うち交付金充当額						26,795
	次年度繰越額						0
	執行率(%) (B/A)						98.3%
予算の状況の説明		・入札手続き前に単価等の入替があり、設計額が36,388千円と増額となった。入札を行った結果、33,770千円で契約し、工事完了前に最終的な精算で変更契約を行い、最終的に執行額が33,494千円となっている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	歩道新設工事の実施	目標	()	()	()	(歩道新設工事の実施)	
		実績				歩道新設工事の実施	
達成状況説明	予定通りに歩道を新設することが出来た。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (2年度)
	歩道新設工事の完了	目標	()			歩道新設工事の完了	()
		実績				歩道新設工事の完了	
	【R2成果目標】 遊歩道歩行者数13万人/年	目標	()	()	()		(13万人/年)
		実績					
進捗状況説明	予定通りに歩道を新設することが出来た。						

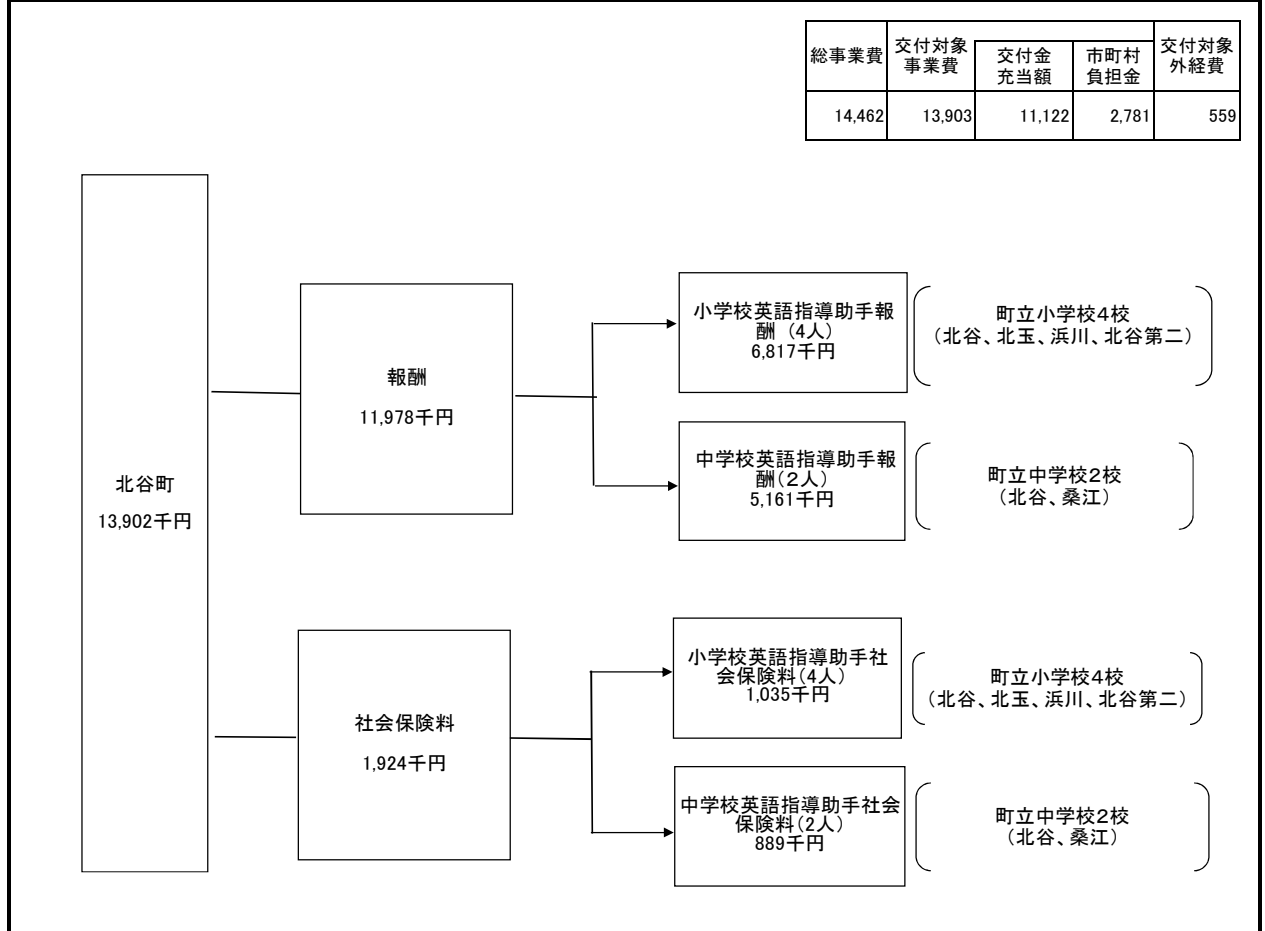
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当該区間は、西海岸沿いの道路として唯一、歩道が整備されていない区間であったため、歩道を新設することにより、西海岸沿いの歩道としての一体的な利用が図られ、観光客や町民が散策できる歩道として活用していけるかが課題であった。	工事については、完了する事で、目標を達成できている。歩行者数13万人/年に向けて、関係各課と調整し取り組んでいきたい。
今後の取り組み方針		
整備完了後、本事業の効果を確認するため歩行者の交通量調査を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	33,494	33,494	26,795	6,699	0
<pre> graph LR A[北谷町 33,494千円] --> B[工事請負費 33,494千円] B --> C[有限会社栄野比土建 33,494千円] subgraph Project [西海岸歩行者ネットワーク整備事業] C end </pre>					
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は町の指名業者選定委員会にて企業組織、実績、知識等を助案した上で選定されており、妥当であったと考えている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当であった。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使徒については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		北谷町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	英語指導助手派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	国際化に対応し、産業振興・観光振興に貢献できる資質・能力を持つ人材を育成するため、各小中学校に1人ずつの英語指導助手(AET)を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,505	13,346	13,360	13,900	14,780
		(b) 予算現額	13,505	13,346	14,372	14,634	14,780
		(c) 増減額(b-a)	0	0	1,012	734	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	13,505	13,346	14,372	14,634	14,780
	B. 執行済額		12,476	12,393	13,543	14,129	13,903
	うち交付金充当額		9,300	9,900	10,500	11,000	11,122
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.4%	92.9%	94.2%	96.5%	94.1%
予算の状況の説明		○不用額877千円については、交付対象外経費(コロナウイルス感染症対策による学校休校)が生じたことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	小学校4名(各校1名、幼稚園兼務)	目標	(AET配置数 4名)	(AET配置数 4名)	(AET配置数 4名)	(AET配置数 4名)	
		実績	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	
	中学校2名(各校1名)	目標	(AET配置数 2名)	(AET配置数 2名)	(AET配置数 2名)	(AET配置数 2名)	
		実績	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名	
達成状況説明	【幼稚園】町立4幼稚園へ小学校の英語指導助手を兼務させ、年12時間以上英語にふれあう時間を設けた。 【小学校】文部科学省指定の教育課程特例校として、英語活動の研究実践を推進するため、町立4小学校に1名ずつの英語指導助手を配置し、普段からネイティブの発音に親しませるとともに、授業(1・2年は年12時間、3・4年は年35時間、5・6年は50時間)において、「聞く」「話す」活動の中でネイティブによる発音を生かした指導を行った。 【中学校】町立2中学校に1名ずつの英語指導助手を配置し、英語教師とのチームティーチングの中でネイティブな発音による指導を行った。また、英語圏に関する年間行事について、国際理解教育とも関連して教師と協力して活動したり、生徒への指導援助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	小学校:児童の英語への興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績	/	/	79.7%	73.2%	/
	中学校:沖縄県学力到達度調査において、英語の件と本町の平均正答率の差△0.3ポイント以上	目標	()	()	(△2.8ポイント以内)	(△0.3ポイント以上)	()
		実績	/	/	△1.2ポイント	3.4ポイント	/
進捗状況説明	【小学校】 ・学習した会話を活用し、「聞く」と「話す」ことを重点に指導を行った。英語に関するアンケートの設定において、「英語の授業は好きですか」「聞くことは楽しいか」「話すときは楽しいか」「もっと英語を話せるようになりたいか」「英語の文字を読んでみたいか」の5つの興味関心に関する質問に対し、「あてはまる」と答えた児童(3~6年生)73.2%であった。 【中学校】 ・授業導入・展開時におけるルーティーンの一つとして、英語による質問(あいさつ、月日、天気等)に対する受け答え、ペア・グループ学習による基本文型の発表スタイルを統一して継続実施、英語に対するスキルと基本事項の定着を図った。R1県到達度調査の結果、県平均に対し+3.4ポイントと目標を達成できた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【小学校】 ・新学習指導要領による英語科の教科化の本格実施をうけて英語指導助手の勤務時間では、対応できない可能性がある。 ・教科書の内容に対応し、電子黒板とも併用した効果性の高い教材・教具等を作成し、研修会を通して学ぶ機会を引き続き設ける必要がある。	【小学校】 ・新指導要領における週時程において、次年度の学級数等を把握しながら、どのような勤務時間であれば、対応できるのかの学級担任との時間調整の検討を行う必要がある。 ・デジタル教科書の導入も図り、英語指導助手との電子黒板とも併用した効果性のある授業展開を増やし、研修会を通して学ぶ機会を引き続き設ける必要がある。
	【中学校】 ・小学校の新学習指導要領による英語科の教科化により、小学校英語科の学習内容を把握し、小から中へスムーズな接続が大切となる。	【中学校】 ・小中連携の良さを生かして、教科内容や生徒の実態等のスムーズな接続を図り、電子黒板も併用した効果性の高い教材・教具等を作成し、学習内容の確認をしっかりと行うことが必要である。
今後の取り組み方針		
【小学校】 ・昨年度の英語指導助手の持ち時間数を4校中、3校において増やし、各学年のTT(チームティーチング)の指導時間を確保する。 ・町主催の英語担当教師研修会、英語指導助手研修会の中で、引き続き新学習指導要領における英語科の学習内容や有効な教具等について情報共有を図るほか、講師を招聘し学習する機会を設ける。 【中学校】 ・各学校の有効な手立てを取り入れた英語授業スタンダードに対し、各校共通実践を図るとともに、町主催の英語担当教師研究会で、その実践を通して見える、良さや改善点を確認し、より充実した改善内容を加え取り組んでいく。 ・小学校が講師を招聘し学習する場に、引き続き中学校からも英語指導助手を参加させ合同研修会とし、新指導要領における学習内容等を共通理解する機会を設ける。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手への応募者を面接し採用しているため、支出先の選定方法は妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○報酬及び社会保険料については、北谷町特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則に基づいた金額であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	日本語指導学習支援員派遣事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	日本語による会話能力の向上を図るため、日本語指導学習支援員を学校に配置し、日本語が十分に理解できない外国籍児童や帰国児童等へ学習支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,823	3,122			3,222
		(b) 予算現額	3,151	3,122			3,222
		(c) 増減額(b-a)	328	0			0
		(d) 繰越額	-	-			-
		A. 計(b+d)	3,151	3,122			3,222
		B. 執行済額	3,067	2,905			3,140
		うち交付金充当額	2,300	2,300			2,511
		次年度繰越額	0	0			0
		執行率(%) (B/A)	97.3%	93.0%			97.5%
予算の状況の説明	○不用額82千円については、欠勤、交付対象外経費(コロナウイルス感染症対策による学校休校等)が生じたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	日本語指導学習支援員配置数:1人	目標	(配置数1名)	()	()	(配置数1名)	
		実績	配置数1名			配置数1名	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	○日本語指導学習支援業務嘱託員を1人委嘱し、町立小学校2校へ日本語指導教室を設置した。対象児童の実態に配慮し、2校において1週間あたり4日(北谷小15名)と1日(北谷第二小3名)に分けて指導を行った。 ○年度途中に転入・転出した児童を含め、年間で18人の児童に対し日本語指導学習支援員による指導を実施した。個々の日本語習得状況に応じて、1人あたり週2時間~4時間の指導を実施し、日本語の習得による通級終了者は1人であった。 ○日本語による会話(コミュニケーション)ができるようになり、楽しく学校生活を送ることができている						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	日本語の会話で意思疎通ができ、学校生活等への困難が改善された割合(80%以上)等を含め本事業の在り方を検証する。	目標	()	()	80%以上	()	
		実績			82.0%		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
進捗状況説明	○北谷小学校を拠点に、北谷中学校、北谷第二小学校で日本語指導を実施した。 ○対象児童生徒の日本語および学習習得状況を踏まえた指導を実施した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	○指導対象となる各児童生徒の実態に応じた日常会話指導、教科指導を継続することによって、学習理解を深める児童生徒が増加した。	○日本語指導教室担当者研修会において、各指導者の児童生徒の評価の仕方、指導法、教材・教具、勤務校での教職員との連携の在り方等について、情報を共有し、研鑽を深めていく。
	○日本語の日常会話で困っていないが、教科学習における日本語の理解・習得で困難があることで自信がなく、日本語での発表や作文を苦手とする子が多い。	○日本語指導教室担当者と学級担任が連携し、教科学習に関わる日本語指導の課題を早期に把握することが大切である。その上で、適切な支援策を講じる必要がある。
	○外国にルーツをもつ日本語指導教室入級者が年々増加し、担当する児童生徒数も増加することによって、一人一人への指導時数が限られてきている。	○家庭での日本語使用状況は、各家庭によって異なるが、日本語習得への影響もある。限られた指導時数の現状を踏まえ、日本語指導が必要な子どもへの家庭へのケアを学校全体としてすすめる必要がある。
今後の取り組み方針		
<p>○今後も日本語指導教室担当者研修会を計画的に実施する中で、指導における成果や課題を共有し、指導法の工夫改善を図る。</p> <p>○管理職研修会等においても日本語指導の状況について周知し、学校全体の取り組み事項として推進してもらう。</p> <p>○日本語指導を受けている児童生徒ができるようになったことや努力していることとの家庭連絡を密にし、保護者の不安も軽減しながら、児童生徒の安心感や自信につながる指導を行う。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	3,259	3,140	2,511	629	119
北谷町 3,140千円	報酬 2,610千円	日本語指導学習支援員報酬 2,610千円 (人数:1人)			
	社会保険料 396千円	日本語指導学習支援員の報酬に係る社会保険料 395千円 (人数:1人)			
	費用弁償 134千円	日本語指導学習支援員費用弁償 134千円 (人数:1人)			
資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目		評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○北谷町一般職非常勤職員設置規則に基づき、日本語指導学習支援員の業務に適すると認められる者を委嘱しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町一般職非常勤職員設置規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		北谷町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	学力向上学習支援員派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学習に遅れをとっている児童生徒に対して、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置し、自ら学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な学習内容を理解させることで、学習環境の充実・強化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		14,290	16,271	16,387	16,462	16,960
			16,016	16,271	16,387	15,868	16,960
			1,726	0	0	▲ 594	0
			—	—			—
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		16,016	16,271	16,387	15,868	16,960
			15,825	16,157	16,274	15,083	16,095
			12,400	12,500	12,800	12,000	12,875
			0	0	0	0	0
			98.8%	99.3%	99.3%	95.1%	94.9%
予算の状況の説明	○不用額865千円については、欠勤、交付対象外経費(コロナウイルス感染症対策による学校休校等)が生じたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	小学校4名(各校1名)	目標	(配置数4名)	(配置数4名)	(配置数4名)	(配置数4名)	
		実績	配置数4名	配置数4名	配置数4名	配置数4名	
中学校2名(各校1名)	目標	(配置数2名)	(配置数2名)	(配置数2名)	(配置数2名)		
	実績	配置数2名	配置数2名	配置数2名	配置数2名		
達成状況説明	○小学校では、算数科の授業を中心に、中学校では中学1年生の数学科の授業にチームティーチングの授業形態で、教師と協力しながら児童生徒への助言および、理解が不十分な児童生徒を支援し、個に応じたきめ細かな指導の援助を行った。 ○各学校で放課後や長期休業において、計画的な個別指導としての補習指導に活用された。 ○児童生徒の休み時間等に、児童生徒からの質問に答えたり、定着していない児童生徒へ支援を行った。 ○テストや調査の採点及び単元で落ち込んでいる項目の把握、教師の指示による教材・教具の作成を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町の平均正答率の差 小学校 △0.7ポイント以上	目標	()		(△1.8%以内)	△0.7ポイント以上	()
		実績			0.7ポイント	1.4ポイント	
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町の平均正答率の差 中学校 △1.1ポイント以上	目標	()	()	(0.2%以上)	△1.1ポイント以上	()
実績				△0.8%	1.4ポイント		
進捗状況説明	○小学校では、北谷町ニライっ子実践9項目(授業規律・スキル)に基づいた授業改善が進むとともに、学力向上学習支援員を活用することで、子どもたちの学力の定着が図られてきた。県到達度調査において、県平均に対し+1.4ポイントと目標を達成することができた。 ○中学校では、北谷町ニライっ子実践9項目に基づいた授業改善が進みつつある。学力向上学習支援員を活用することで、子どもたちの学力の定着が図られてきた。要因として、一斉授業におけるつまずきのみられる生徒に対して丁寧な学習支援が行われた成果と考えられる。その結果、全体平均では、県到達度調査で、県平均に対し+1.4ポイントと目標を達成した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	○中学校で目標値が達成できたのは、実践9項目を中心とした授業スタンダードを支援員にも共通理解を図り取り組んだことで、県平均を超えることができた。	○現在の取組には効果性があると考えられ、「どのように理解が進んだのか」「どのような変容がみられたか」等を今後とも検証の視点として授業改善の取組を継続推進する。
	○小学校においては今年度より、中学校においては令和3年度から新学習指導要領が本格実施となるため研修が必要となる。	○次年度実施の中学校学力向上学習支援員へも、新学習指導要領の趣旨を理解させ児童生徒の支援へ新しい教育の方向性を理解させる必要がある。
	○新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業が求められており、お互いの考えを共有しながらさらに考えを深める授業となっている。	○引き続き町学力向上学習支援員研修会で、新学習指導要領への変更に伴う支援の方法についてテーマに設定し班単位議論を深めた研修を行う必要がある。
	○そのような授業の中で、学力向上学習支援員がどのように子どもたちを支援していくのが課題となってくる。	○諸学力調査結果の分析を丁寧に行い、つまずきの原因や指導方法の課題をさぐり、その解決方法を学力向上学習支援員を含めた教師全体で、節目毎に研究し共通理解を図り今後とも取り組みの継続が肝要である。
今後の取り組み方針		
○町学力向上学習支援員研修会を年3回(5月、7月、12月、)実施し、新学習指導要領の趣旨・方向性等の理解を深めるとともに、変更に伴う支援の方法について、実践内容等を持ち寄り、検討を加える等、適宜アンケート調査を実施、振り返るマネジメント化し、よりよい支援方法の研修を深める。		
○学力調査結果を分析するだけでなく、課題のある単元や問題、つまずきの原因や指導方法の課題等について、学力向上学習支援員を含めた職員で確認し合う場を設定する。小学校では学年会、中学校では教科部会を週時程上に位置づけ「単元を見通した授業改善」を各教科担当と共通実践し取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	16,723	16,095	12,875	3,220	628
北谷町 16,095千円	報酬 13,821千円	学力向上学習支援員報酬 13,821千円		〔 人数:6人 〕	
	社会保険料 1,924千円	学力向上学習支援員の報酬に係る社会保険料 1,924千円		〔 人数:6人 〕	
	費用弁償 350千円	学力向上学習支援員費用弁償 350千円		〔 人数:6人 〕	
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目		評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○北谷町一般職非常勤職員設置規則に基づき、学力向上学習支援員の業務に適すると認められる者を委嘱しており、支出先の選定は妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○北谷町一般職非常勤職員設置規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名		北谷町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-④	スクールソーシャルワーカー派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	スクールソーシャルワーカーを配置し、小中学校を巡回し、児童生徒のおかれた様々な環境の問題(家庭、友人環境等)に働きかけ、問題を抱える児童に対して問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	(a) 当初予算額	3,091	3,456	3,477	3,489	3,555
	(b) 予算現額	3,481	3,456	3,477	3,475	3,555
	(c) 増減額(b-a)	390	0	0	▲ 14	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	3,481	3,456	3,477	3,475	3,555
	B. 執行済額	3,398	3,418	3,436	3,449	3,528
	うち交付金充当額	2,700	2,600	2,500	2,500	2,822
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	97.6%	98.9%	98.8%	99.3%	99.2%
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容について、適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	スクールソーシャルワーカー配置:1名	目標 (配置:1名)	(配置:1名)	(配置:1名)	(配置:1名)	
		実績 配置:1名	配置:1名	配置:1名	配置:1名	
達成状況説明	目標	()	()	()	()	
	実績					
<p>○教育委員会に1名配置した。</p> <p>○町内小中学校に在籍している児童生徒やその保護者の困り感(いじめ、不登校、情緒的不安、経済的不安等)に、相談活動を通して、適宜助言を与えたり、心の拠り所にさせたり、必要があれば関係機関へ繋ぐ活動を行った。</p> <p>○中学校の生徒指導部会、各学校の個に応じたケース会議に参加し、情報を共有するとともに、対応方法の助言を行った。</p> <p>○本町が進める学びのプロジェクトの取組、スマイルプログラム(人間関係のスキルの構築に係る取組)に関する町内の教職員を対象とした研修会において講師として活用、各教師への取組内容の周知、取組方法の実習等の指導を行った。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	町立小中学校の問題行動(暴力、金銭せびり、喫煙、飲酒、家出)の件数	目標 ()		小学校8件以内 中学校19件以内	小学校8件以内 中学校18件以内	()
	・小学校 8件以内 ・中学校 18件以内	実績		小学校6件 中学校11件	小学校22件 中学校6件	
	スクールソーシャルワーカーの研修や助言により問題行動等に的確に対応でき再発防止等に役に立った(80%以上)を含め、対象となる教諭にアンケートを実施し本事業のあり方を検証する。	目標 ()	()	()	(80%以上)	()
進捗状況説明	実績				82.5%	
	<p>○「スマイルプログラム」(体験を通じた人間関係づくり)を推進した。</p> <p>○「組織的・計画的な指導援助システム」(子の状況を3段階に分け、それぞれに対する支援の方法等を示したもの)について、研修会や会議等で先生方へ周知し、取組方法の指導を行った。</p>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	○「スマイルプログラム」「組織的・計画的な指導援助システム」における取り組みが、スクールソーシャルワーカーの指導や助言により浸透し、小中学校の不登校の減少につながった。	○各種町研修会や各学校での研修会や会議等で先生方への指導、助言を今後も充実させ、取り組んでいく。
	○中学校の問題行動の件数は減少したが、小学校においては増加した。特に、生徒間暴力の件数が昨年度の1件から17件となった。	○生徒間暴力等の問題行動を発見・把握した場合、教師等による解決を図るが、児童生徒が自らの行動をふり返り改善を図ろうとする状態には至っていない場合があった。児童生徒自らが問題を解決していくための継続支援とスキルの定着が必要である。
	○特別支援学級在籍児の不応行動や、特別支援学級での指導に対する保護者からの相談が多く見られた。	○発達の特性に合った適切な指導・支援が必要であり、特に特別支援学級担当者同士の支援体制の改善が求められる。
今後の取り組み方針		
<p>○今後も、「学びのプロジェクト」における「スマイルプログラム」「組織的・計画的な指導援助システム」における取組を進めるにあたり、スクールソーシャルワーカーの指導・助言を加えながら取組を充実させる。</p> <p>○自己指導力を育てる指導の共有・浸透を図るために、SSWIによる面談シートの活用推進を図り、その場をおさめるだけにとどまらない、児童生徒自らが相手の気持ちを考え、周囲へのかかわり方を改善していく態度を育てる指導を充実させる。</p> <p>○特に各小学校において、特別支援学級担当者対象に、年6回「ティーチャーストレーニング」をSSWを講師として実施し、気になる子ども及びその保護者へ適切で具体的な対応ができる学校職員の育成を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	3,528	3,528	2,822	706	0
北谷町 3,528千円	報酬 3,011千円	スクールソーシャルワーカー報酬 3,011千円	〔 人数:1人 〕		
	社会保険料 451千円	スクールソーシャルワーカーの報酬に係る社会保険料 451千円	〔 人数:1人 〕		
	費用弁償 66千円	スクールソーシャルワーカー費用弁償 66千円	〔 人数:1人 〕		
資金の流 れ、費 目 ・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町一般職非常勤職員設置規則に基づき、スクールソーシャルワーカーの業務に適すると認められる者を委嘱しており、支出先の選定は妥当である。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○北谷町一般職非常勤職員設置規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。		
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名		北谷町				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-⑤	北谷町ハワイ短期留学派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本町の中高生をハワイへ短期留学させ、語学学習やホームステイを通して英語力の向上を図りながら、ハワイの北谷嘉手納町人会との交流会により海外で活躍しているウチナーンチュとの親睦を図り、世界的な視野を持った人材を育てる。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	(a) 当初予算額	6,850	6,296	5,827	6,129	5,345
	(b) 予算現額	6,004	5,670	5,974	5,197	4,804
	(c) 増減額(b-a)	▲ 846	▲ 626	147	▲ 932	▲ 541
	(d) 繰越額	—	—			—
	A. 計(b+d)	6,004	5,670	5,974	5,197	4,804
	B. 執行済額	6,004	5,670	5,974	5,197	4,900
	うち交付金充当額	4,800	4,500	4,700	4,000	3,920
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	102.0%
予算の状況の説明	入札残に伴う予算541千円の減額を行うとともに、交付対象外経費の見直しに伴う執行済額の増額。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	中・高校生ハワイ短期留学派遣:15人	目標 (派遣15名)	(派遣15名)	(派遣15名)	(派遣15名)	
		実績 派遣15名	派遣15名	派遣15名	派遣15名	
	派遣生の事前研修 派遣後の事後報告会及び報告書の作成	目標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
	実績 実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 派遣生徒15名の募集に対し、25名の応募があり、日本語・英語面接、作文の選考試験を実施した。 事前にAETによる英語の研修会を8回実施したため、北谷嘉手納町人会とのピクニック交流会や各家庭でのホームステイ体験がスムーズに実施できたとともに、事後報告会の実施や報告書を作成することで、当初の目標の達成を確認できた。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標 ()	(80)	(80)	(80)	()
		実績	100	100	100	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ハワイ短期留学の効果を検証するために、派遣後に保護者へのアンケートを実施したことで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合が80%以上であることから、当初の目標の達成を確認できた。 派遣生へもアンケートを実施したところ、「英文科系がある高校へ進学希望」、「海外大学に進学希望」、「将来は英語を活かせる仕事がしたい。」など、将来に対する目標を把握することができた。 				

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ホームステイは、北谷町及び嘉手納町出身者で構成する北谷嘉手納町人会の家庭であるが、ハワイへ移民した歴史について事前学習がなかったため、事業の趣旨を理解していない派遣生もいた。 派遣生の英検取得状況及び英語運用能力について把握し、大学側と講義レベルを決定したため、派遣生のレベルに合わせた講義に改善された。 英語教諭の引率教員を派遣したことで、ハワイ大学やホームステイとのコミュニケーションに支障もなく、派遣生を留学させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ハワイへ移民した歴史について事前学習をすることによって、事業の趣旨を理解し、派遣生の国際的な視野がより広まると考える。 派遣生の英検取得に向けて事前研修を多く開催するため、選考試験を今よりも早期に実施し、派遣生を決定することで、派遣生のレベルを合わせる。 職員1名で派遣生15名の引率をするのは厳しいため、引き続き英語教諭の引率教員を派遣する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 選考試験を今よりも早期に実施し、派遣生を決定するとともに、引き続き英語教諭の引率教員を派遣する。 平日はハワイ大学の学生寮での滞在、ホームステイは週末のみ北谷嘉手納町人会の家庭にする。 沖縄県からハワイへ移住した移民の歴史を学習し、ハワイ沖縄連合会との連携を深めるとともに、北谷嘉手納町人会とのネットワークを広げていく。 		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">5,548</td> <td style="text-align: center;">4,900</td> <td style="text-align: center;">3,920</td> <td style="text-align: center;">980</td> <td style="text-align: center;">648</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,548	4,900	3,920	980	648	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,548	4,900	3,920	980	648										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">北谷町 4,900千円</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">委託料 4,755千円</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">ハワイ大学</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">(株)リウボウ旅行サービス 4,755千円</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">北谷町ハワイ短期留学派遣事業 ハワイ大学研修管理業務委託</div>										
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">交付対象外経費 (職員旅費) 154千円</div>											
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">交付対象外経費 (現地での食費) 494千円</div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">報償費 96千円</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">選考委員 謝礼金(2名) 40千円</div>											
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">事前研修 謝礼金(2名) 56千円</div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">旅費 161千円</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">引率教員(1名)</div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">役務費 281千円</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">契約書翻訳業務 48千円</div>											
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">現地通訳料 233千円</div>											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">負担金 255千円</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">北谷嘉手納町人会</div>											
資金の流れの点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明											
資金の流れの点検・費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者の契約については、北谷町契約規則に基づき指名競争入札しており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○語学研修及びホームステイの節減できた費用については減額をしており、不用額は生じず適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である派遣生徒は総事業費の約3割を負担しており、事業内容から判断して妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、主に航空運賃及び現地費用であり、真に必要なものに限定されている。											

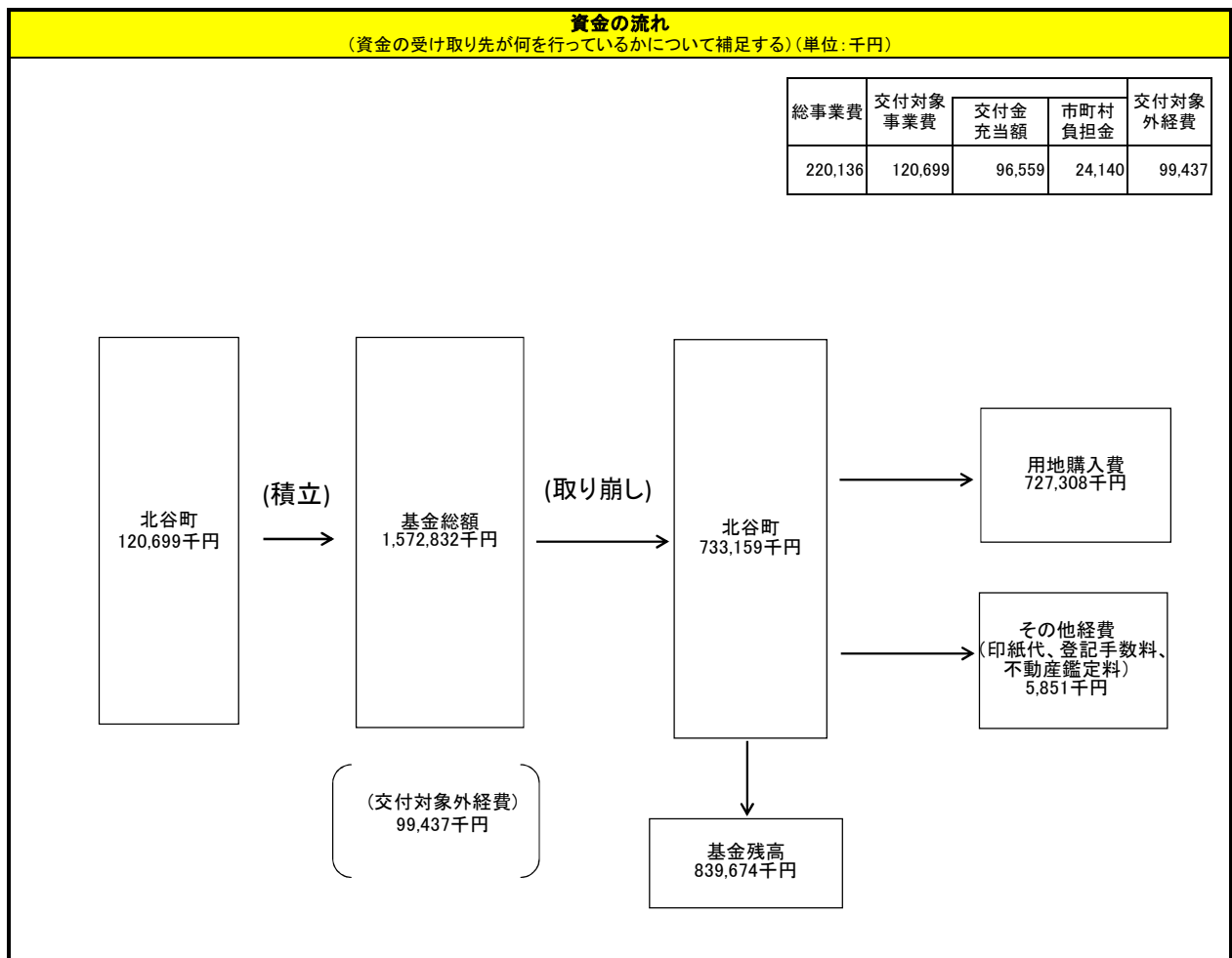
市町村名		北谷町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	跡地利用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組 Ⅲ-8		
事業内容	今後返還が予定される駐留軍用地の有効かつ適切な跡地利用計画策定に向けた跡地利用推進調査及び地権者に対する説明会等を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,396	22,778	18,630	17,090	15,679
		(b) 予算現額	15,509	12,993	14,278	15,001	15,679
		(c) 増減額(b-a)	▲ 10,887	▲ 9,785	▲ 4,352	▲ 2,089	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	15,509	12,993	14,278	15,001	15,679
		B. 執行済額	13,554	12,992	14,277	15,001	13,860
		うち交付金充当額	10,800	10,000	11,400	12,000	11,088
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	87.4%	100.0%	100.0%	100.0%	88.4%
	予算の状況の説明	当初予算より1,819千円減額となったのは、当初予定していたキャンプ桑江南側地区における「知の拠点に関する検討」の取りやめ等の業務内容の見直しによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	キャンプ瑞慶覧倉庫地区:跡地利用基本計画策定	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
キャンプ桑江南側:土地利用ゾーニングの検討、地権者への継続的な情報提供	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区) ・跡地利用に関する情報提供及び意見交換を目的とした地権者意見交換会(1回)や不動産鑑定評価などを行い、跡地利用基本計画の策定業務を行った。 (キャンプ桑江南側地区) ・これまでの跡地利用検討業務や社会情勢の変化を踏まえ庁内会議などを通して土地利用ゾーニングの検討を行った。 ・先行取得事業における実績報告などを「まちづくりニュース」として地権者へ情報提供を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区)跡地利用基本計画の策定の完了	目標	()	()	(完了)	()	
		実績			完了		
	(キャンプ桑江南側地区)庁内調整及び有識者ヒアリングなどを踏まえ、知の拠点における導入機能の精査を行い、概略整備効果の検証を行う。	目標	()	()	(完了)	()	
		実績			未実施		
	【R2成果目標】(キャンプ瑞慶覧倉庫地区)跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する町民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上	目標				80%	
【R4成果目標】(キャンプ桑江南側地区)跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する町民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上	目標				80%		
進捗状況説明	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区) ・跡地利用に関する情報提供及び意見交換を目的とした地権者意見交換会(1回)を行い、当該交換会における地権者意向を踏まえ跡地利用基本計画の策定を行った。 (キャンプ桑江南側地区) ・平成21年度に策定した基本計画において、知の拠点に関する文言、及び内容が反映されていないことから、基本計画の見直し作業を最優先事項とし、知の拠点に関する具体的な検討などについては見送った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区) これまでの地権者意向から変化が表れていることから、変化を踏まえた基本計画図(3案)を基に地権者との合意形成が課題である。	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区) 平成30年度に策定した基本構想や地権者意向の変化を踏まえ、引き続き地権者との協議を行い、当該地区の有効な跡地利用の促進を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での地権者意向などを踏まえて地権者勉強会、及び意見交換会を行い、基本計画図(3案)を選定する。 ・基本計画図を選定した上で、跡地整備計画を策定し、地権者説明会にて地権者との合意形成を図る。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13,860</td> <td>13,860</td> <td>11,088</td> <td>2,772</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,860	13,860	11,088	2,772	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,860	13,860	11,088	2,772	0										
<pre> graph LR A[北谷町 13,860千円] --> B[委託料 13,860千円] B --> C[玉野総合コンサルタント株式会社 沖縄支店 13,860千円] </pre>														
<ul style="list-style-type: none"> ・地権者説明会開催補助 ・ホームページ更新データを作成 ・まちづくりニュース発行 ・先行取得事業支援業務 ・地権者勉強会、及び意見交換会開催補助 ・キャンプ瑞慶覧整備計画の策定 														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札で選定されており、選定方法は妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については業務完了後に検査を実施しており、目的に即し適正なものであったと判断した											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		北谷町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	北谷町特定駐留軍用地内土地取得基金事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア	
担当部署名	総務部 企画財政課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	早期の事業着手に向けた取組 Ⅲ-8	
事業内容	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な跡地利用を推進するため、基金を活用して特定駐留軍用地内の土地の先行取得を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	303,000	150,000	273,250	400,000	143,829
		(b) 予算現額	750,000	655,000	391,250	700,000	143,829
		(c) 増減額(b-a)	447,000	505,000	118,000	300,000	0
		(d) 繰越額	-	-			-
		A. 計(b+d)	750,000	655,000	391,250	700,000	143,829
		B. 執行済額	750,000	655,000	391,250	700,000	120,699
		うち交付金充当額	592,535	516,000	311,300	557,900	96,559
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.9%
	予算の状況の説明	実際に申出のあった地権者からの要望に弾力的に対応するために、土地取得に係る所要額を早期に積立てる必要があることから、当初の予算額で組んでいたが、沖縄振興特別推進交付金における市町村枠が不足していたため、23,130千円を減額して積立を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	基金の積立	目標	()	()	(基金の積立)	(基金の積立)	
		実績			700,000千円	120,699千円	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
	達成状況説明	基金の積立額については、120,699千円を積立した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)
	特定事業の用に供する土地取得目標 14,166㎡(達成率約78%)	目標	()	()	()	(78%)	()
		実績				76%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	土地取得は12,864㎡(76.4%)となり、目標値に届かなかった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	目標値に届かなかった要因として下記の事項が上げられる。 (キャンプ桑江南側地区) 緑地・公園用地に該当する地権者の土地売却意欲が低い。 (キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区内の倉庫地区の一部等)) 過小宅地(200㎡)の地権者から優先的に買取する方針を示しながらも、その他の地権者の申出期間を同時期に設定したことでその他の地権者の土地売却意欲を減退させた。	(キャンプ桑江南側地区) これまで文書発送や個別訪問による周知・喚起を行ってきたが、成果が薄いことから、継続的な周知・喚起と併せて先行取得の方針変更が必要である。 (キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区内の倉庫地区の一部等)) 申出期間についての検討を行う。
	今後の取り組み方針	
<p>(キャンプ桑江南側地区) 緑地・公園用地の確保を斜線緑地に限定せずに対象区域を拡大することで、進捗率の向上を図る。</p> <p>(キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区内の倉庫地区の一部等)) 過小宅地(200㎡)の地権者を優先しつつ、なおかつその他の地権者の土地売却意欲の向上を図るため、先行取得申出期間の差別化を行う。 (例 過小宅地の地権者申出期間 8月初旬～中旬、その他の地権者申出期間 8月中旬～9月下旬)</p>		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○基金積立事業であり、預入先などの選定は基金運用検討委員会にて適切に行っており、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	